

ぜったい忘れない

大河内寛征

私は小さいときどうして日本語の勉強をしなければならないか分かりませんでした。毎日祖父母と日本語を話すのが分かりませんでした。でも十一才になった時 J I C A 生徒研修の試験が受けられることを聞きとても嬉しくなりました。その後、いっしょうけんめい五年間家族は毎日、日本語の勉強を手伝ってくれました。

母は 1993 年に同じ研修を受けたので、私が研修に行くことをとてものぞんでいました。だから私も日本へ行きたいと思いました。

しけんの時はしんばいだったけれどもじしんもあつたのでだいじょうぶでした。けっかがきてすごく嬉しくなりました。なぜならごうかくしたからです。

日本についた時びっくりしました。ブラジルととてもちがうからしんばいでしたけど、たくさん友達をつくってあんしんしました。

この J I C A で行った友達といっしょに勉強したり、たくさん笑えたり、楽しめることができました。色々なじゅぎょうを受けて、いろんな先生方にであえて、たいへん勉強になり、心からかんしゃしております。

中学校体験入学では J I C A センターとくらべてとてもちがいました。富士見中学校を初めて見た時クラスの中はとてもうるさくて勉強になりませんでした。でも日がたつにつれてぶかつなどでいっしょにサッカーをしたりしてたくさん友達ができました。さいごにはとても楽しかったです。

楽しみにしていたホームステイは、さいしょのうちはとてもふあんでした。山口さんと話していたらやさしくて楽しい家族だとしり仲良くなることができました。山口さんと回転寿司にいった食事をしました。この三日間すくなかったけれどもいろいろなことをしてくれたので本当にありがとうございました。

研修旅行の時に京都や神戸を見学しました。そこでおみくじをしたり、おみやげを買ったりしました。神戸では、神戸大震災のさいがいがそのままのこっているところを見ることが出来てかんどうしました。そのちかくには神戸からブラジルにゆびをさす家族のどうぞうがあります。この旅行でいじゅうや、しんさいについて学ぶことができありがたく思っています。

この研修で、日本をすることができ日本語もたくさんおぼえました。そしてたくさん友達ができ、たくさんぶんかを学びあらたなみちをあゆむことができました。このチャンスをくれた JICA に心からありがたくかんしゃしています。